

# 731部隊二木秀雄の免責と復権

— 占領期『輿論』『政界ジープ』『医学のひろば』誌から

2015.3.28、20世紀メディア研版 加藤 哲郎(早稲田大学)

1945-46 金沢・輿論社

1946-56 東京・ジープ社

1949-51 ジープ社



1

方法①クロス・メディア、②731史、③占領・密約・貫戦レジーム(A・ゴードン、テッサ・モリス・スズキ参照)

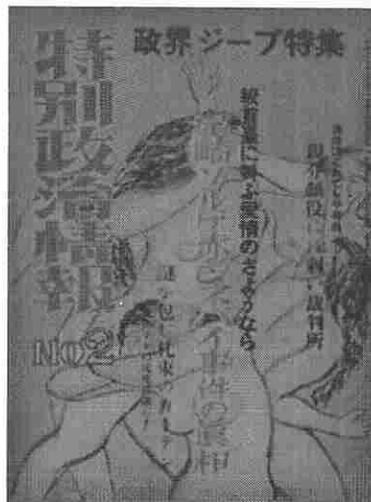
はじめに一発端はゾルゲ事件、二木秀雄の『政界ジープ』48.10

- 1 731部隊隠蔽—仮本部「会報」10項目口どめ・名簿作成
- 2 免責3段階—金沢『輿論』『日本輿論』から『政界ジープ』へ
  - (1) 1945.10 「純科学的調査」「昭和天皇は無関係」
  - (2) 1946.1 「連絡事項」10項目、マルタとペストノミ以外供述
  - (3) 1947.4 「鎌倉会議」9項目、生体データ提供免責密約
- 3 復権3段階—PHW、伝染病、帝銀事件とジープ社
  - (1) 1949 厚生省医務局『医学のひろば』、性生活展
  - (2) 1950 731同窓会「精魂会」代表、日本ブラッドバンク
  - (3) 1952 朝鮮戦争と細菌戦のススメ「地球の上に蚤が降る」
- 4 1956.3 二木秀雄の転落＝「政界ジープ恐喝事件」

おわりに—81森村『悪魔の飽食』の頃、大乘日本イスラム教団代表

2

発端: 1949.2ウィロビー報告前にゾルゲ事件を「赤色スパイ事件」と名付けた雑誌『政界ジープ』48.10



「ゾルゲの遺体がどこにあるのか、どこに埋葬されているのか」ということは公表されませんでしたし、全然わかりませんでした。ところが、昭和23年の10月だったと思いますが、『政界ジープ』っていう雑誌に「尾崎ゾルゲ赤色スパイ事件の真相」という記事が出ているのを見つけて買って帰ったんです...その記事のなかに、ゾルゲの遺体は引き取り手がなくて、拘置所が雑司が谷の共同墓地に土葬して、そこにささやかな木の墓標を立てたというのがあります...」(石井花子)



3

## 多磨墓地の5つの墓碑

ゾルゲ、尾崎秀実、同志たち: 懇心平等万霊供養塔 (精魂塔、1956.11建立・隊員及び犠牲者の供養、二木寄付146万円・有志5万円、Unit 731 Memorial)、二木秀雄墓



4

## 二木Futaki秀雄(1908-92)の数奇な生涯

- 1) 731部隊石井四郎側近・青年将校、企画課・結核班長で生体実験、敗戦後、金沢731「仮司令部」参謀格
- 2) 戦後金沢文化の先駆者：雑誌『輿論』『日本輿論』刊行—「天皇制と原爆」
- 3) 時局雑誌『政界ジープ』刊行 vs. 左派の佐和慶太郎『真相』
  - ・ジープ社社長、厚生省監修・総合科学研究会『とびら』『医学のとびら』刊行
  - ・1949浅草松屋、厚生省・文部省・労働省・日教組後援『若き人々に贈る性生活展』主催、高橋お伝標本展示
- 4) 最盛期1950年
  - ・それまで数冊のジープ社単行本、この年400冊刊行(資金?)
  - ・731部隊上級幹部同窓会「精魂会」結成・代表に
  - ・内藤良一・宮本光一と共に日本ブラッドバンク創設(→ミドリ十字→薬害エイズ)
- 5) 1956戦後最大の恐喝事件「政界ジープ事件」で検挙・転落
- 6) 1974.12 新宿ロイヤルクリニック・日本イスラム教団総裁

5

## 731部隊での結核・梅毒班長二木秀雄

四高→金沢医大・医博(梅毒)→陸軍軍医学校→731生体実験  
 ①シェルダン・H・ハリス『死の工場：隠蔽された731部隊』(柏書房、1999)p.126に米軍第4次ヒル報告二木供述、②ハバロフスク裁判西俊英供述、③中国档案馆秦正氏供述に生体実験証言、④西野瑠璃子によれば二木は梅毒生体実験で慰安婦問題と731の接点、森村誠一の面談に何も語らず(ハル・ゴールド『証言 731部隊の真相』廣済堂文庫、p.180以下)⑤秋元寿恵夫の親友吉田源二は二木班(『医の倫理を問う』)、⑥41.4日野原重明の見た生体実験フィルム  
 ⑦榊原秀夫供述「二木は前企画部長、非常な活動家、相当勢力ある男」(滝谷本)



6

## 二木秀雄 = 731部隊総務部企画課長(関東軍と計画立案)、第一部第11科長、結核・性病班長

「731部隊」編成表 (近藤昭二 作成・元隊員100名からの聞き取りによる)  
 (いねん『戦争と医の倫理』三思社、2012、p.2)



7

## 隠蔽：1945敗戦直後の731部隊と金沢

四高人脈・金沢医大、野間神社仮本部、輿論社

- ・ 8/10 新京で石井四郎・参謀本部朝枝繁春会談「証拠は地球上から永久に隠滅せよ」、マルタ処理・建物爆破焼却
- ・ 8/16 石井空路大連・22頃帰国若松町自宅に、直後陸軍省医務局で河辺虎四郎・梅津美治郎・荒尾興功と会談
- ・ 部隊幹部陸路8/20ハルビン・通化・釜山經由帰国、8/25下関・舞鶴上陸、金沢へ(既に43年から標本保存の金沢医大石川太刀雄研究室に資材・資料搬入)
- ・ 増田知貞(金沢1中・4高・京大医・731)大佐帰国「会報」=「疎開先なき者は金沢に至り増田大佐の指揮を受く」仮本部長、8/26野口圭一軍医証言「金沢の住人の二木に全部お願いした(青木『731』)、
- ・ 8月末金沢野間神社に731「仮本部」・太田澄ら約15名1か月常駐、石井も9月上旬金沢に行き終戦処理・対占領軍対策協議
- 9/6 二木は広島(森村誠一『続 悪魔の飽食』)



8

# 第1次免責工作=45.10「あくまで科学研究」

- 米軍サンダース中佐来日、宮川米次と相談し、9/20最初の尋問=出口三郎・井上隆朝・通訳内藤良一、
- 731部隊は「細菌研究のみ・人体実験なし」「天皇は化学戦に反対」=天皇免責のために1945/9月末「内藤レポート」を元に、G2ウィロビーと共にマッカーサーにも戦犯訴追免責了解を得て、10/1サンダース・新妻清一・中佐(原爆調査も)会談・通訳内藤良一「戦争犯罪とは無関係の純科学的調査」、
- 10/2 マッカーサー、天皇免責をフェラーズに命ず、
- 10/9・10/11・10/16 増田知貞・新妻尋問・通訳亀井貫一郎「内容非公表、戦犯無関係、米国はソ連の調査を拒否する」
- 10/29内藤・田中淳雄会談、10/30京都・田中淳雄尋問「ペストノミ」肯定、通訳内藤(ワシントンには報告されず)、
- 11/9新妻・増田会談=内藤案として「マルタと細菌戦攻撃ペストノミ以外は積極的に開陳すべし」「亀井先生によろしく」(太田昌克『731免責の系譜』、青木富貴子『731』、常石敬一他)

10

# 一九四五・八九(太田)『731免責の系譜』 隠蔽Ⅱ金沢仮本部「会報」十項 目Ⅱ口裏合わせと連絡網作成

自宅とはどこを指すのか。かつて勤務した軍医学校のある東京が、出身地の石川県か。文章で詳述する増田大佐重軍の書簡から、一月下旬の時点で増田が千葉県内の農家宅に留まりしていたことが確認できるが、尋問前の滞在場所ははっきりしない。  
いずれにせよ、尋問録で増田は被質のため「自宅にいた」と説明しているが、この増田の話とは自身の食い違ふ文書が存在するもので紹介したい。それは(会報)と題した手書きの文書で、陸軍の便せん一枚に○の項目が箇条書きされている。以下、全文を引用する。

- 会報
- 一、増田大佐(八下)閣議室ホーム二事務室ヲ開設シ下閣司ノ上陸ヲ処理ス
  - 二、柴野梅田(八上)崎(二)上陸
  - 三、江口梅田(八上)崎(二)上陸
  - 四、岸本團(八上)崎(二)上陸
  - 五、海防艦三(八上)崎(二)上陸セリ
  - 六、機材給料(八上)崎(二)上陸セリ
  - 七、先般提出せし疎開先名簿(八各地方別)二編成シ各二疎開先スベシ
  - 八、疎開先ノ者ハ全数ニ至リ増田大佐の指揮ヲ受ク
  - 九、得以下服装ヲ貸ヘ威容ヲ揃セザル如クスベシ
  - 一〇、軍医名簿ノ件

会報からは、部隊が各団ごと山口県の仙崎や須佐、北九州の門司に引き揚げたと、疎開先別に名簿を提出していたことなどがわかる。牡丹江部隊は四二年から終戦まで進出した沖崎清重元伍長(一九二一年生まれ)がこの文書について、こう解説してくれた。

会報は教育部の元副官(敬心)が持っていた。私は九日のロフ開戦で本部から「秘密書類とノミを持ってこい」と言われ、牡丹江から本部へ出張していた。そのまゝ牡丹江へは戻れず、浦野が「ワシのとこへ来て仕事を手伝え」と言うので、「四日の最終列車で一緒に部隊を離れ九。教育部長(海軍部長の奥野)全吉、梅田に入り、森に引き揚げたのは二五日の朝。増田大佐は終戦処理の「本部長」で、石井閣下から命令を受け(各団別に)伝っていた。会報はそれを書き記したものだ。

9

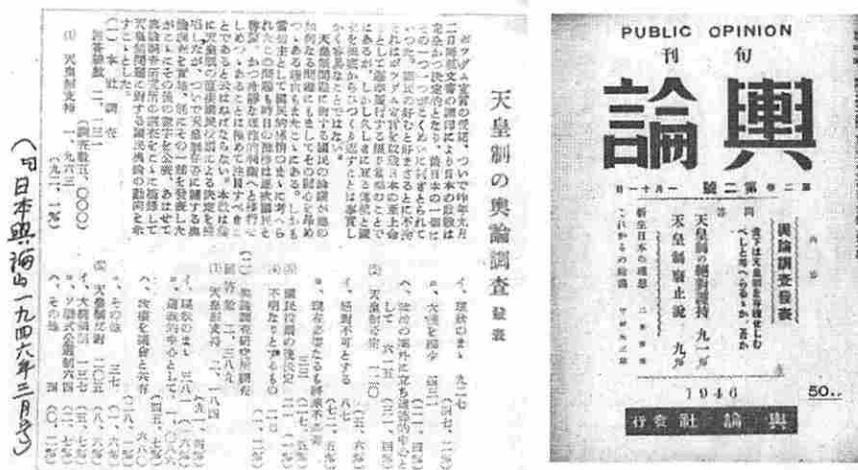
# 金沢・輿論社、二木の旬刊雑誌 『輿論』創刊1945.11.10(石井四郎偽装葬儀日)



11

# 天皇制の輿論・国民投票による護持:

米CIC軍人、室伏哲郎(1930生?)、中村静治、越村信三郎、河上肇らも執筆



12

# 731石川太刀雄の原爆論(『輿論』45/12)

＝売り文句「原子爆弾に関する日本否世界最初の学術的・啓蒙的原稿」、「広島は人体実験」「放射能は長期」、二木は「平和・産業利用」(二人は四高同期?)



13

# 46/3『日本輿論』のCCD検閲対策(『輿論』無)

(『真相』46.3-57.3=14% vs. 『政界ジープ』46.8-55.9? ほぼゼロ)

- 大西芳夫「天皇制に就いて」他7カ所 delete、しかし配本後、「この注意書きは送らせず、将来の事前検閲は続けなければならない」、以後、CCDに目次を英訳して全面協力(広告:薬・銀行)



14

# 第2次免責工作:石井四郎の取引

(米国側動きは、NARA/IWG公開資料 Researching Japanese War Crimes, 2006, & Select Documents on Japanese Warcrimes and Japanese Biological Warfare, 1934-2006

- 1945/11/10千代田村で石井四郎偽装葬儀、
- 11/20石井四郎宅に米軍将校6人招待「サンダースはすぐ帰る」、後に下北沢宮本光一郎でも接待(二木は、この頃金沢で『輿論』創刊)
- 11月末 サンダース軍医中佐の鎌倉亀井貴一郎宅送別会・帰国報告(青木『731』)、
- 12/6 キーナン来日国際検察局IPS設立、12/24共産党志賀義雄より細菌戦情報、年末、石井四郎宅で服部卓四郎歓待?
- 45末-46初? 亀井貴一郎宅で「鎌倉会議?」(常石『医学者たちの組織犯罪』p.67他、米軍と内藤・有末・亀井、石井も出席? ただし青木『731』はMIS亀井ファイルから47/4説)
- 新妻口裏合せマニュアル「北野中将へ連絡事項」10項目を80通配布[太田p.144,235,カーボンコピーと言うが、ガリ版では? 隊員名簿管理者が二木なら金沢の吉田印刷＝吉田次作から全国配布・通知? 講和まで毎月「徒歩連絡要員」証言も(朝日95/9/19)]
- 46/1/7 志賀義雄からの新聞記者情報「米兵捕虜にペスト菌使用」
- 1/8 G2・CISポール・ラッシュ・メモ「石井発見」
- 1/9 北野政次帰国・有末精一訪問「米軍とはもう話がついていて戦犯となることはない」
- 1/11 GHQトンプソン中佐尋問「生物戦のことは口外しないように」
- 1/16ポール・ラッシュの亀井要注意レポート
- 1/22-2/25 石井四郎尋問、CIS/CCDで石井四郎・細菌戦関係者をウオッチリストに(山本武利『GHQの検閲・諜報・宣伝工作』p.8)、
- 2/26「スター&ストライプス」紙に石井四郎生存記事、
- 3/5 国際検察局IPSモロウの石井四郎調査をG2が妨害・却下、
- 4/29東京裁判IPS起訴状に天皇も石井四郎も無し、
- 4/30 IPS亀井尋問、
- 5/31 トンプソン報告

15

## ●北野中将へ連絡事項

- 北野中将へ連絡事項
- 一 (〇)「報告」ハロワに出サス
  - 二 岡部陸軍少佐ハロワに出サス
  - 三 増田大佐ハロワに出サス
  - 四 岡部陸軍少佐ハロワに出サス
  - 五 第一部隊長、第二部隊長
  - 六 七、八 陸軍中佐、田中中佐
  - 七 陸軍中佐、田中中佐
  - 八 陸軍中佐、田中中佐
  - 九 陸軍中佐、田中中佐
  - 一〇 陸軍中佐、田中中佐

16

一九四五末一四六初(①サンダース・トンプソン・内藤良一・新妻清一・増田知貞、②亀井貴一郎・河辺虎四郎・有末精三・ウイロビー、③石井四郎・服部卓四郎)

「連絡事項」十項目〇マルタと「保作」細菌戦ペストノミ使用以外は積極供述・米軍協力・資料提供

# 黒幕：亀井貫一郎のG2ウィロビー工作

青木『731』、NARA/MIS亀井ファイル、「談話」731は「亀井評伝」再録版で抹消  
45.8.15陸軍特殊研究処理要領「ふ号[風船爆弾]・登戸・731 隠滅」全部に関係  
47-50.月1万5千円でG2 Agent?



17

17

# 1946.8 二木秀雄上京：ジープ社時局雑誌『政界ジープ』 創刊 (not カストリ, not 右翼「厳正中立・万年野党」) vs. 『真相』46.3-57.3



- 1946・9「女の子にもわかる大衆の政治誌」「小粒でピリッとした政界裏面誌」
- 1948・9「今では政治の民主化の旗手として全国10万読者[プランゲでは5万]」「わが国唯一の大衆政治誌、政界浄化のために闘う政界ジープ、勇敢に真実を語る政界ジープ」「断然類誌を圧倒、躍進、特ダネ満載」
- 1949・8「ある権威ある調査で、総合雑誌は文藝春秋、婦人雑誌主婦の友、文芸雑誌小説新潮、政治時局雑誌では政界ジープが上半期最も売れた雑誌」
- 1950・3「ジープ社社長・松山清一郎を詐称し金銭強要は当社と関係なし」
- 1950・9創刊5周年「総合雑誌でも娯楽雑誌でもない流動型時局雑誌、戦後続々現れたいわゆる時局雑誌の多くはすでに影を消したが、今日残っているレポートにしる真相にせよ旋風にしろ例外なく、その内容は別として、企画の立て方から編集の組み方まで、いちばん早く発足した本誌のスタイルをまねてスタートした」
- 1952・4「我が国唯一の大衆政治誌」復刊、1955・9創刊十周年「政財界の裏面誌」

18

18



19

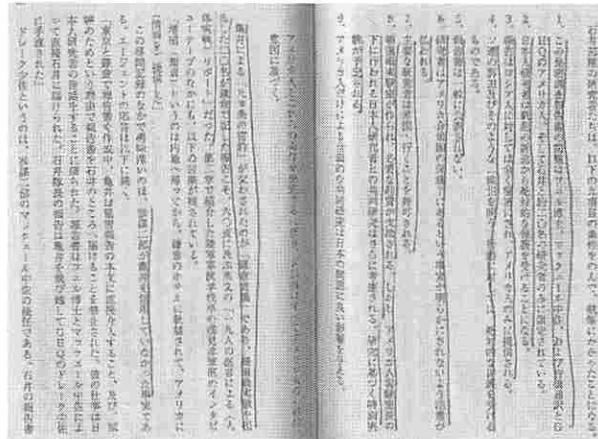
# 初期の『政界ジープ』とジープ社出版物 =GHQに忠実、親米、「逆コース」に照応し右傾化・暴露雑誌化

- 1946・8創刊号 尾崎行雄「新日本建設の基点」、鈴木安蔵「勝利のために—民主戦線の展望」、井汲卓一「津田左右吉の天皇論」、阿部真之助「官僚論」、丸山幹治「幣原から吉田へ」、松谷天光「わたしの議会日誌」、二木「発刊のことは：新しい科学的世界観、ジープは近代アメリカ文明の最頂点の一つのあらわれ、総合判断の頭脳」(ジープ社初単行本『連合国の日本管理方策』)
- 1946・9<「女の子にもわかる大衆の政治誌」「小粒でピリッとした政界裏面誌」> 長谷川如是閑「象徴の語相」、高橋正雄「割れた人民戦線」、永田徹「心と心のつながり憲法論議」、高倉テル「議事堂という所」、細道兼光「大山都夫氏に寄せて」、原比呂志「揺らぐ保守陣営」(広告自社「孫悟空」連合国の日本管理政策)、山之内製菓・広瀬サーベイズ、印刷金沢吉田印刷所)
- 1946・12(プランゲク)青藤隆夫「議会上の反軍闘争」、浜口雄彦「父を語る」、末川博「河上肇博士」、中西功「尾崎さんの思い出」、森殿「いつまで続く吉田内閣」、竹原信太「吹きまくる嵐—教壇を追われる教授陣」、「学生の政治運動」、横山隆一(広告：ゼネラル衛生濾水器、貴土社、理研ビタミン、凍傷治療剤タベシリン)
- 1947・10 吉田茂「野党の心算」、栗山良夫「保守反動の意味は」、小坂善太郎「三代目議員」、並木秀雄「農村青年の文化」、岡崎晴樹「降伏軍使マニラの落」、秋月潤「政界裏の黒幕・辻高六を懐にする」、山崎道子「私は私の道を行く」、永井仁香「西尾寛・平野雄一の一打ち」、近藤日出雄(単行本 二木秀雄『政界ニューフェイスジープ社刊行』)
- 1948・9・25特別政治情報第一号「再開された娘の身売り」「政界は崩れかけた屋敷なし沼」「飛行機丸がじり、石油が枯渇み、餓兵餓とこへ突進した」(義の女性が初めて雑誌に)「わが国唯一の大衆政治誌、政界浄化のために闘う政界ジープ、勇敢に真実を語る政界ジープ」断然類誌を圧倒、躍進、特ダネ満載
- 1948・10特集第二号「馬場ソルゲ赤色スパイ事件の真相」犬養健・尾崎未亡人インタビュー、「隠すむ礼東のカーテン：昭和電工事件」、「根絶されぬ灰色異業」
- 1949・5 佐野学・三田村四郎「わが反共宣言」、神山茂夫「裏切り者の論議」、志田晴光「リュシコフ大尉の末路」、「玄洋社と扇形舎」、「機形の創産」、徳川夢声、佐藤達夫、理秀秀雄、与謝野秀、座談会「政治と科学」、二木秀雄「素朴子並崎記：原字力は人間を滅亡にせしめるか、それとも平和的・建設的に用いられ新しい文明の創造者となるか」連載開始(前号尾島夫人について専断記事あり、本誌記者上田君一身上の理由で退社今後一切関係ありません、雑誌5種廃刊登録)
- 1949・11 「政治家の奥さん」、「女ボス」、「ババコフスク将官特別容所」、「白足袋を追って」加藤芳郎、横山藤三、阿部誠「悲劇の海軍空母—ババコフ海軍空母計画の全貌」(総合科学研究会「若き人々におくる性生活」厚生省、文部省後援、浅草松屋)
- 1949・12(プランゲ検閲終了)「政界に渦巻く敵と諜路」、「大塚の土曜夫人」、横田俊吉「わが反軍闘争」、「心算の正体」、(特集の巨冊)経済ジープ創刊11月5日発行、「大衆社幾々製菓業へ、ボロ儲けのクスリ商売、一役買車生音」

20

20

# 第3次免責合意:47.4「鎌倉(亀井宅)会議」9項目密約



- 1947/1/7 ソ連検察局がIPSに石井尋問要求、
- 1/15 米ソ協議・桐澤十三夫供述提出
  - 1/24 米国法務局スミス中尉内藤良一喚問・人体実験供述
  - 4/8 亀井報告「日本における共産主義者の活動」
  - 4/17 G2 ワイロビー将軍介入「米国国益上の国家秘密」なので法務局調査中止へ(3/14, 8/29 亀井のワイロビー宛て書簡から青木『731』は47年からG2 Agent月1万5千円、加藤の解読では17 March 1950文書で月2万円の情報提供Agent)
  - 4/21 フェル報告一節尋問
  - 4/28 内藤・金田・増田尋問対ソ連対策、この頃「鎌倉会議」9箇条密約、
  - 5/18-9 米軍石井尋問、
  - 5/15-6/13 ソ連側石井尋問(4日間)
  - 6/24 フェル報告、二木訳問
  - 6/24 病理標本8000枚等データ(石川太刀雄ら)米軍へ
  - 11/28 亀井軍服詐欺で逮捕(辻喜六隠匿物産事件の一環、以後G2エージェント?)
  - 12/21 ヒル・ヴィクター報告「費用25万円は安かった」、二木の人体実験データ報告を含む

21

# 隠蔽・免責から復権へ=PHWと予研、極東軍事裁判ソ連訊問要求、帝銀事件・日本脳炎

- 1948/1/26 帝銀事件発生・731部隊関係者も捜査対象、4/13 警視庁に「専門家」として二木秀雄助言協力「本当に青酸カリが出たのか(安価で入手容易な青酸ソーダ・ナトリウムではないか)」、同日宮本光一も「731のほかにも北京1855部隊・南京1644部隊も」と捜査協力、4/24 増田知貞、4/27 石井四郎、青酸化合物人体実験関係者16人名簿提出
- 8/3 G2 歴史課有末精三・服部卓四郎から警視庁へGHQの731関係者捜査中止の「意向」伝達
- 8/21 平沢貞通逮捕(常石『謀略のクロスロード-帝銀事件捜査と731部隊』日本評論社、2002)
- Cf. 8月九大米兵生体解剖事件5名死刑判決(「731は対ソ戦のため」として免責)

GHQ/PHW(公衆衛生福祉局)の公衆衛生政策、特に感染症対策

- サムズ准将の医療・福祉改革と厚生省再編、防疫対策が急務(サムズが46.11伝研田宮猛雄らに発疹チフス囚人体実験指示、米軍406研に協力、高杉晋吾『731部隊 細菌戦の医師を追え』徳間書店、1982, p.69. 竹前栄二『DDT革命』岩波1986、武見太郎)
- 米原爆被害調査団(ABCC)に石川太刀雄、緒方富雄ら早くから協力(二木も9.6島、YMCA『天よりの声』東京トリビューン社1949刊行で原泉貞子「生れめんかな」普及→放射線影響研)
- 結核世界最高で死亡率一位、45-46 天然痘(死者3千)・発疹チフス(死者3千)・梅毒(性病40万)、48 日本脳炎(死者2千)、48 予防接種法、BCG接種法、ウイルス研究・ワクチン開発と強制疫学
- 47 予研分離、小林六造(防疫研)・小島三郎(栄1644)、福見秀雄(防疫研)らワクチン開発で復権、福見は予研第6代所長・長崎大学学長(CIA福見見)

<原子力と似る感染症研究の軍事利用と平和利用>

22

# 第1次復権:厚生省医務局監修・総合科学研究会発行『とびら』『医学のとびら』ジープ社

1949.6-51 厚生省医務局監修・総合科学研究会『医学のとびら』刊行

- 「インターン生の雑誌、医師の国家試験の狭き門をくぐる全国幾千の同行に对しささやかな道しるべを与えることこれ本誌創刊の趣旨である」
- 連載執筆者に二木秀雄・石川太刀雄・緒方富雄ら
- 広告は大手医薬医療機器企業



49 浅草松屋「若き人々における性生活展(総合科学研究会、厚生省・日教組後援、高橋お伝標本展示、32清野謙次「阿伝陰部考」、大橋義興「毒婦伝説」)

49.10『別冊政界ジープ: 受胎調節特集』戸田正三京大教授



23

# 『政界ジープ』の右旋回・反共化: 左翼時局雑誌『真相』との対抗

- 1950・3法 別冊政界ジープ特集3号「おどり出た 新興宗教」、大宅壮一「明治・大正・昭和新興宗教の全貌」、赤地榮「インチキ宗教はなぜはびこるか」、武藤高男「鎌倉をひっくり返したキリスト」、「新興宗教に希望す」
  - 1950・8法 「創刊5周年記念特集」(極東コンソルティウムの地下組織 G(デレヴィアノ)機関とF(福本和夫)機関を暴く)「50年テーゼを生んだ革命指令」「共産党非合法化の前夜を探る」、「スターリン・吉田茂 架空対談」、「勝共問題で後まぐる岩波グループ」、「恐るべきソ連の機関技術」、「国共合作秘話 共産革命の立役者ボロジンと語る」、大宅壮一「学生運動の史的回想」、「イールズ事件後の学生運動」<「真相」4月号731特集・二村秀雄経歴暴露への反響>
  - 1950・9 政界ジープ臨時増刊「戦争、日本はどうなる、われわれの生活はどうなる、ソ連はいつ攻勢に転ずるか、ソ連果たして原爆を使うか、世紀の運命を決定する水爆の威力、日本国防軍は再編されるか、米軍は日本を見捨てるか、「戦禍の朝鮮」、「アジアの焦点機須賀基地」、二木秀雄「原爆戦か、ゲリラ戦か一意外なのは米軍の苦戦、ゲリラ戦がかなりの役割」
  - 1952・6国 「国会お好み十人衆」、「総理大臣逮捕すべからず」、「政界動物園」、「マニラの騒動」、「日本真珠ジャンクル」、連載小説「石原完爾」(発行:ジープ新社 仁藤直哉)、「200万円大懸賞 衆議院解散は何年何月何日何時何分か」、二木秀雄「鮎川義介氏の願望」
  - 1953・4 総選挙特集号「島鹿野郎勝敗断行」「総理の椅子をめぐる激動」、「東亞連盟と石原信雄」、「同胞三万五千を救った話——中共引き揚げ問題」、「吉田打倒、冬期労働ストの突如」
  - 1954・9 「監禁化する砂輪事件」、「東邦生命の詐欺事件」、「映画監督を監督する」、「東京予備校模範事件」、「暴かれた加州銀行の乱展」
  - 1955・3国 「鳩山早期引退、今や必要」、「真正すべき東邦生命のスクランダル」、「慶應化する砂輪事件」、「一万田蔵相と選挙資金」、「口に国産化を唱え専ら外車愛用の国会族」、「伏魔殿林野行に再びミス」
- (ジープ社社長 清水隆英、常務・編集局長 久保俊広=陸軍中野学校出身、後に大物総経理)



24



